

キリストは人間と同じ者になられた

フィリピの信徒への手紙 2 : 1 - 13



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023 年 10 月 1 日

聖霊降臨後第 18 主日

上野聖ヨハネ教会にて

パウロは長い伝道旅行の間にいくつもの教会を設立しました。今日わたしたちは使徒書としてフィリピの信徒への手紙を聞いたのですが、そのフィリピの教会は、彼にとっては特別に大切な意味を持つ存在でした。二つの理由があります。

第1は、彼がヨーロッパ世界に足を踏み入れて設立した最初の教会がフィリピの教会だったことです。パウロはフィリピの町でリディアという女の人と出会って、彼女とその家族に洗礼を授けることになりました。これがフィリピの教会の始まりです。

第2は、彼がフィリピで伝道活動していたときも、そこから去った後も、彼とフィリピの教会の人々は、深い信頼と愛で結ばれていたということです。教会は神さまに集められた聖なる存在のはずです。しかし現実には人間の集まりですから、さまざま問題が生じます。実際にパウロは、コリントの教会に対しても、ガラテヤの教会に対しても手紙を書きましたが、その口調は非常に激しく、教会の歪みや過ちを責める内容を含んでいます。

しかしフィリピの教会への手紙の口調はまったく違います。フィリピの教会は、いろんな圧迫や誘惑があつたにもかかわらず、パウロが伝えた福音から逸脱せず、数は多くなくても着実な信仰の歩みを続けていました。そして今、パウロは迫害に遭

って獄中に捕らえられているのですが、フィリピの教会はそのパウロのために祈り、また具体的な援助を続けてくれたのです。

けれどもパウロはこのフィリピの教会を喜び感謝しつつも、今そこに生じている危ういものを感じていました。何かというと、教会の中にひび割れが生じ、亀裂が生まれつつあるようなのです。放置すればこれは教会を内側から深く損なう危険があります。そこでパウロは慎重に言葉を選びながら愛をもって、しかし率直に語りかけました。それが今日の2章です。

「そこで、あなたがたに幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、“霊”による交わり、それに慈しみや憐れみの心があるなら、」フィリピの信徒への手紙 2:1

「幾らかでもあるなら」とは控えめな表現です。けれども逆に言えば、それが失われそうだと心配しているのです。失われてはならない大切なものを、パウロはフィリピの人々に思い起こさせようとしています。

ギリシア語原文を見ると、ここでパウロは「もし（……があるなら）」を4回も繰り返して、フィリピの人たちの心に問いかけています。

「そこで、あなたがたに幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、“霊”による交わり、それに慈しみや憐れみの心か

あるなら、」

それがあるなら——

「同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。」2:2

すでに十分あなたがたはわたしの喜びです。けれども、そうすることによって、わたしの喜びをさらに満たしてほしい。

「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。」2:3-4

それぞれが謙遜になり、お互いに人への思いやりをもってほしい。そうであってこそ、教会に平和が生まれ、教会に集うことが喜びになります。

けれどもただそう願って、フィリピの教会の人々にこのように勧めるだけでは不十分かもしれません。根本的なところに立ち帰ることが大事に思えます。それは何かと言うと、教会の土台であるイエス・キリストを見つめることです。それでこう言います。

「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至る

まで従順でした。」2:6-8

これはパウロ以前から伝わった礼拝での賛歌（礼拝で神を賛美する詩的な歌）がここに取り入れられたものと言われます。

ここで特にこの言葉に注意しましょう。

**「キリストは僕の身分になり、人間と同じ者になりました」
キリストは人間と同じ者になられた。**

これはキリスト教の核心、根幹です。クリスマスの意味です。キリストは神の身分、神の形であられたのに、人間と同じ者になられた。なぜかと言うと、人間の現実があまりに痛ましいものだったからです。人間は、神の祝福を受けて造られたはずなのに、神に背き、互いに争い、希望を失って罪と死に支配されてしまった。それを高い所から見て憐れむだけではなく、神の立場を捨ててキリストは地上に降りてこられた。人と同じ者になってわたしたちのところに来てくださった。

キリストは、人が悲しみに涙するゆえに、自らも涙を流す者となられた。

人が労苦に汗を流す者であるがゆえに、自らも汗を流す者となられた。

人が傷つき血を流す者であるがゆえに、自らも血を流す者となられた。

このようにして人間にただ近づかれただけではなく、人間と同じ者になって、人間となって、人間の救いとなられた。人間の現実を引き受けてご自分のものとされたのです。これは、わたしたちのことをこの上なく大切に思ってくださいましたからです。それはわたしたちを新しい命に生かすためです。

このようなキリストを知り、キリストを思うとき、わたしたちは高慢、高ぶりから解放されて謙遜にされます。謙遜にされたわたしたちは喜びをもって神を仰ぎ、またお互いに教会のメンバーを大切な存在として再認識するようになります。

どうかわたしたちの教会が、またわたしたちひとりひとりが謙遜にされ、一緒に喜んで神を仰ぎ、またお互いを大切にしようことができますように。神さま、この願いをお聞きください。主のみ名によってお願いいたします。アーメン